



さく ぶん ぶ もん にゆう しょう さく ひん
作文部門入賞作品



ない かく そう り だい じん しょう
内閣総理大臣賞

ご ねん せい いな さく たい けん
五年生の稲作体験

ぎ ぶ けん たか やま しり つきよ み
岐阜県高山市立清見小学校5年
やま した さ よ
山下 紗世

私の通う清見小学校では、毎年五年生が稲作体験をします。学校の近くの塩谷さんという方に、田んぼをかり、もみまきから田植え、稲刈り、脱こく、精米までを習っています。保育園年長の時にもやらせてもらいましたが、五年生の私達にはよりくわしく、ていねいに教えてもらっていると思います。私はどうして、毎年五年生が稲作を学んでいるのか、大人達がどうして私達に米作りをさせたいのかずっと不思議に思っていました。学校の授業で稲作の方法を習えば一時間くらいですむ事なのに、なぜでしょう。五年生全員が将来、農家になるわけではありません。うちにも昔、田んぼが有ったのですが、私が生まれるずっと前にやめています。だから将来、私は米作りを仕事にする事は無いと思います。

四月にもみまきをして、五月に苗がちょうど良い大きさに育ち、田植えをするため、私達は、裸足で田んぼに入りました。

「線の所にそってこの深さまで植える。」

「かためてあるでここからもって行けよ。」

「二、三本ずつ、線の間にも入れてな。」

「転ばんように気をつけれよ。」

塩谷さんが説明してくれます。田んぼのどろはドブドブしていて、足がぬけなくて進むのが大変でした。保育園の時より体が大きくなったせいかな、思うように動けません。機械のない昔の人達は、こんなに苦勞をして、もっともっとたくさん苗を、田んぼに植えていったのだと感じました。五年生二十二人で大さわぎをして一枚弱の田んぼで昔の人に申し

訳ないような気持ちになりました。

毎日、登校の時に見る、私達の植えた田んぼの稲。一株ごとが大きくなり、背が高くなっています。私は、ごはんやおもちが大好きなので稲刈りがとても楽しみです。

七月のはじめ、高山では沢山の雨がふりました。学校も休みになり、あふれそうな川や水びたしの畑を見て、五年生の田んぼは大丈夫なのかなど心配になりました。私達の稲はこの雨の中、ちゃんと立っているかな。流されていないかな。外出は禁止だけど見に行きたい気持ちになりました。こんなに楽しみにしている稲刈りが出来なくなったらどうしようとう不安になりました。雨が上がり、登校する時に田んぼを見ると稲は元氣でした。ちゃんとみんな立っていて私はホッと思いました。

安心すると同時に、私は、植物に対してこんな気持ちになった事が今まであったかなと思いました。自分達が植えた稲を心配する気持ち、雨がやむのをまつ気持ち。体験しなければ分からない。生計がかかっている農家の方々はもっと強く思っているはずです。ずっと昔から受け継がれてきた稲作、田んぼを大切に思う心、私たち五年生に教えたいのはこれだったのかと、やっと分かりました。田んぼの授業はとても大切な事なのです。

塩谷さん、本当にありがとうございます。